

平成29事業年度決算の概要について

今般、平成29事業年度の財務諸表について、平成30年8月31日付で文部科学大臣の承認を受けましたので、ここに公表するとともに、決算の概要を説明いたします。

なお、国立大学法人の財務諸表は企業会計原則に基づきながら、国立大学法人における特性に即した固有の会計処理を施した「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」並びに「『国立大学法人会計基準』及び『国立大学法人会計基準注解』に関する実務指針」などに基づき作成しております。

【運営状況】

今期は、東京大学が法人化して第14期事業年度にあたります。

運営状況につきまして、損益計算書では、経常費用2,320億円、経常収益2,347億円と、経常利益26億円となりました。これに、臨時損失として固定資産除却損等4億円、臨時利益として資産見返負債戻入等3億円、目的積立金取崩額の1億円を計上し、平成29事業年度の当期総利益は26億円となっております。

当期総利益26億円のうち、5億円は資金を伴う利益となります。これは効率的な事業実施の実現による経費の削減などの経営努力により創出した利益であり、別途、目的積立金として文部科学大臣の承認を受けた後、中期計画に定めた本学の教育研究の質の向上及び組織運営の改善のための経費に充てることとしております。また、残りの利益21億円は、国立大学法人会計基準に基づく固有の会計処理など構造的な要因により生じた非資金的利益となります。詳細については、別表をご参照願います。

■費用

経常費用は、人件費が約42.1%、物件費（減価償却費を含む）が約57.8%、財政投融资からの借入金の支払利息が約0.1%という構成比率となっております。

人件費は、総額977億円で、前年度比12億円増加（前年度比約1%増）となっております。これは、主に人事院勧告の影響によるものです。

物件費（減価償却費を含む）は、総額1,340億円で、前年度比68億円増加（前年度比約5%増）しております。これは、医薬品及び減価償却費の増加に伴う診療経費の増、スーパーコンピュータの保守費及び減価償却費の増加に伴う教育研究支援経費の増、ならびに共同研究の受入増加に伴う支払いの増等の要因によるものです。

また、財政投融资からの借入金の支払利息は償還計画のとおり2億円で、前年度比0.8億円減少（前年度比約22%減）しております。

■収益

経常収益は、運営費交付金、補助金等の国費が約36%、自己収入約31%、外部資金約27%、資産見返負債戻入約6%という構成比率となっております。

国費は総額839億円で、前年度比4億円増加（前年度比約0.5%増）しております。主な要因としては、運営費交付金を財源とする支出の増加により運営費交付金収益が増加している一方、補助金を財源とした固定資産の取得が増加したことに伴い補助金収益が減少していることによるものです。

自己収入は、授業料等収益（授業料収益・入学金収益・検定料収益）、附属病院収益、雑益が該当し、総額719億円で、前年度比11億円増加（前年度比約2%増）しております。

また、外部資金は、受託研究・共同研究・寄附金などが該当し、総額639億円で、前年度比59億円増加（前年度比約10%増）しております。

【財政状態】

財政状態全般につきましては、貸借対照表に記載のとおりです。

資産は、医学部附属病院病棟Ⅱ期や本郷地区のアカデミックコモンズ、文系総合研究棟、理学系総合研究棟（理学部1号館東棟）が竣工したことなどにより建物が前年度比479億円増加した一方で、償却資産の減価償却の増等の要因もあり、全体としては、前年度比124億円増の1兆4,208億円となっております。

負債は、目白台国際宿舎整備等のために民間より借入れを行ったこと及び医学部附属病院の基幹・環境整備等のために大学改革支援・学位授与機構より新規に借入れを行ったことにより長期借入金が前年度比189億円増加した一方で、施設費等の建設費の減等により資産見返負債が前年度比90億円減少となったことなどが影響して、全体としては前年度比48億円増の2,884億円となっております。

また、純資産は、建物竣工に伴う施設費相当額の振替増などにより全体で前年度比75億円増の1兆1,323億円となっております。

平成29事業年度決算 財務状況について

(単位:百万円)

費用	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	前年度比	収益	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	前年度比
経常費用	209,214	218,349	228,745	229,124	224,029	232,089	8,060	経常収益	213,831	223,327	233,484	235,788	227,377	234,749	7,372
人件費	91,963	90,695	95,928	95,772	96,469	97,739	1,270	運営費交付金収益	75,792	73,918	80,805	78,264	74,077	75,734	1,657
物件費	97,312	106,832	109,069	108,342	103,584	109,490	5,906	授業料等収益	14,162	14,279	12,929	16,269	16,357	16,472	115
借入金利息(財投分)	912	792	658	508	381	297	▲ 84	附属病院収益	44,114	45,659	46,412	46,978	47,975	47,558	▲ 417
減価償却費	16,705	18,026	21,135	22,942	22,135	22,882	747	施設費・補助金収益	17,059	19,646	15,884	14,611	9,454	8,210	▲ 1,244
減価償却費(財投分)	2,320	2,003	1,952	1,558	1,458	1,679	221	雑益	5,207	6,172	5,998	6,919	6,505	7,913	1,408
(経常利益)	(4,617)	(4,978)	(4,739)	(6,663)	(3,348)	(2,660)	▲ 688	受託研究等収益	37,273	42,161	49,093	48,711	49,789	52,612	2,823
臨時損失	691	2,145	1,929	370	527	463	▲ 64	寄附金収益	6,823	7,518	7,510	7,917	8,181	11,299	3,118
当期純利益	4,590	4,999	3,522	6,672 ※	3,328	2,560	▲ 768	資産見返負債戻入	13,399	13,971	14,850	16,115	15,036	14,949	▲ 87
目的積立金取崩額	0	0	27	318	416	106	▲ 310	臨時利益	664	2,166	712	9,279	507	363	▲ 144
当期総利益	4,590	4,999	3,550	6,991 ※	3,744	2,666	▲ 1,078								

※ 中期目標期間終了による精算のための利益8,899百万円は除いております。

■今期における当期総利益の主な要因

□経営努力によるもの

【 5億円】

- ・ 効率的な事業の実施による経費節減など

□国立大学法人会計基準に基づく固有の会計処理など構造的な要因によるもの

【 21億円】

- ・ 附属病院の建物建設資金や診療機器等の整備のための財政投融资からの借入金の償還期間とその財源で取得した固定資産の減価償却期間のずれから発生する借入金元金償還額と減価償却費との差額など

(補足説明)

- ・ 財務諸表の損益計算書に基づき本学の運営状況をまとめています。 ※資産・負債・純資産の状況は貸借対照表を参照。
- ・ 教育、研究などに費やしたコストと本学の収益を明らかにしています。 ※目的別内訳は附属明細書(15)を参照。
- ・ 費用及び収益は発生主義により認識・計上しています。 ※計上基準などの会計方針は財務諸表の注記を参照。
- ・ 経営努力の結果生じた利益は文部科学大臣の承認を受けて、中計計画に定めた使途に充てることができます。
- ・ 臨時利益、臨時損失は、主に固定資産の除却に関する会計処理によるものです。

費用	説明
一人件費	本学が独自の意思決定に基づき費やしたコストです。なお、国からの施設費など減価に対応すべき収益の獲得が予定されない資産の減価償却などは損益外の扱いとなり、損益計算書には表れませんが、国立大学法人等業務実施コスト計算書に表記しています。
一人件費	役員人件費、教員人件費、職員人件費の合計額です。 ※附属明細書(15)及び(18)を参照。
一物件費	リース取引(減価償却費を含む。)と受託研究費等(減価償却費は除く。)を含んでいます。 ※目的別内訳は附属明細書(15)を参照。
一借入金利息	大学改革支援・学位授与機構からの借入金利息(未払利息を含む。)です。 ※借入金は附属明細書(8)を参照。
一減価償却費	企業会計と同様に取得原価を資産の使用期間(法人税法上の耐用年数)によって期間配分を行い、資産の価額を減少させています。(定額法を採用しています。) なお、財産的基礎にかかる減価償却相当額は、損益外減価償却累計額として資本剰余金から控除しています。
収益	大学運営のための財源を、業務の実施に対応して収益計上しています。
一運営費交付金収益	運営費交付金は一部を除き、期間進行基準にて収益化しています。 ※詳細は財務諸表の注記及び附属明細書(16)を参照。
一授業料等収益	授業料は一部を除き、期間進行基準にて収益化しています。その他、入学科及び検定料は収納時に収益として計上しています。
一附属病院収益	附属病院における診療収入です。保険請求分についても診療行為を行なった時点で収益計上しています。
一施設費・補助金収益	国又は地方公共団体から特定の事業に対して交付されるものです。資産取得と成らない費用として認識した計上額を収益化しています。(費用進行基準) ※附属明細書(17)を参照。
一雑益	財産貸付料収入や物品売払収入、特許料収入などが該当します。資金運用している有価証券などの受取利息も含まれています。
一受託研究等収益	受託研究等収入と研究関連収入(科学研究費補助金の間接経費)が該当します。 ※附属明細書(21)～(24)を参照。
一寄附金収益	費用の進行により収益化しています。これにより費用と収益が均衡する会計処理となります。 ※受入額は附属明細書(20)を参照。
一資産見返負債戻入	購入財源別に、発生した固定資産の減価償却費に対応して計上される収益です。